

2023年7月19日(水)

老球の細道742号

スーパースターへの素質は「努力することができる」こと

会津バスケットボール協会 室井 富仁

米プロバスケットボールNBAのフェニックス・サンズに所属する渡辺雄太選手が15日、自身が主催する初のクリニックを東京都内で主催した。都内の高校のバスケ部員40人に、NBAで学んだ技術を伝えた。

クリニックの後に行われた質疑応答がテレビニュースで放映された。ある高校生が質問した。「NBAに行ける選手と行けない選手とではどこが違うのですか?」。渡辺選手が即答した。「単純です。努力できるか、できないかです」。

この言葉は、現実のNBA選手、しかも日本から出たNBA選手だけに非常に重みのある言葉である。ズーっとズームを縮小すると、私たちが日常行っている地方レベルのバスケットボールの世界も同じである。小、中学校と素質満々で高校に来て、将来を嘱望されながら、バスケットに意欲が持てず、努力もできなかったために、伸びないで終わってしまった選手、リタイアした選手をどれほど見て来たかわからない。

一方、ズームを極端に拡大してNBAのトップレベルを考えて見ても同じであった。かの神様マイケル・ジョーダンも努力の虫であったと言われている。高校生の最初の頃は身長が低く2軍でプレイしていたが、身長が伸びるにつれ1軍に抜擢された。しかし、ここで凡人と異なるのは、1軍へ行っても2軍の練習にも参加して努力を続けたことである。バスケットボールの世界のみならず全ての世界において、天才、魁と言われる人は例外なく「努力することができる」人たちである。素質や才能、天性だけで勝負できる期間はわずかである。

ところで、サッカー、野球などでは外国の本場で活躍する日本人選手が数多く輩出している。そのためにその競技レベルが年々アップしていることは既に承知であろう。ではバスケットボールはどうであろうか。渡辺、八村のたった二人である。これからさらに、この二人に続く日本人、福島県人、会津人選手が輩出するのであるだろうか。

幼い時に素晴らしくあっても、その素晴らしさは一生続くとは限らない。スーパースターに成長させるためには本人のみならず周囲の大人(コーチ、本人)の努力も大切である。米国のバスケットボール専門雑誌『タイムアウト』に大人が注意すべきことが記されてあった。

- *素晴らしく見えるのは、特別に優れたプレイヤーではなく、あなたの子どもだからである。
- *成功を忘れないこと、失敗は忘れてしまうこと。
- *評価は現状ではなく、上達している過程をしよう。
- *スポーツの奥深さを理解するには時間がかかる。落ち込む時がきつとくる。その時は親子、コーチで辛抱しよう。
- *スポーツを楽しませること。スポーツを生活の中心にするのではなくて、生活を楽しむ一つの手段としよう。

会津では「努力の神様」野口英世を輩出している。常に世界を視野においた育成環境を。